2012年の厚生労働省研究班の調査によれば、全国の認知症高齢者の数は462万人と推計され、65歳以上の

方の15％に相当します。また、認知症の症状が明らかになる前の段階（軽度認知障害：ＭＣＩ）の高齢者数も

400万人と推計され、今や認知症は誰もがかかりうる、とても「身近な病気」です。

　どなたでも年齢とともに老化が進みます。物覚えが悪くなったり、忘れっぽくなったり、人や物の名前がなかなか出て来なくなることはよくあります。しかし、**認知症は「老化による物忘れ」とは違い**、脳の神経細胞が変性し、壊れてしまうことにより起こる病気であり「記憶の障害」と「生活上の障害」に困ることが特徴です。進行すると、理解力や判断力が低下し、日々の日常生活も誰かの手助けなしでは送れなくなってしまいます。

認知症は早期に発見して、正しく診断され、適切な治療を受けることにより、症状を改善し進行を遅らせることができます。また、薬剤による治療だけでなく、福祉や介護のサービスを受けることにより、ご家族の皆さんの介護負担を減らすことができます。

* 体験の一部を忘れる　　　　　　　　　　　　　　　　　　●　体験全体を忘れる
* ヒントを与えられると思い出せる　　　　　　　　　　　　●　ヒントを与えられても思い出せない
* 時間や場所など見当がつく　　　　　　　　　　　　　　　●　時間や場所などの見当がつかない
* 日常生活に支障はない　　　　　　　　　　　　　　　　　●　日常生活に支障がある
* 物忘れに対して自覚がある　　　　　　　　　　　　　　　●　物忘れに対して自覚がない

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　●　新しい出来事を記憶できない

認知症では抜け落ちる

監修：首都大学東京　繁田雅弘

**体験の流れ**

**記憶の帯**

**記憶の帯**

**体験の流れ**



健康的な物忘れ

「認知症かな？」と思っても、「年のせいだ」とか「まさか自分の家族が認知症だなんて」と考え、病院受診をとまどったり、またどこに相談すればよいかわからないまま悩みを抱えていませんか？

　少しでも気になることがあれば、お近くの地域包括支援センターやかかりつけ医に相談してみましょう。